

学力検査問題 「国語」(その一)

(2022 一般 III)

解答はすべて解答用紙に記入せよ。

1 次の文章を読んで、問一～問七に答えよ。

人は「ひとつになりたい」という欲望と「それぞれでありたい」という欲望を持っているが、消費欲望禁圧のために「ひとつになりたい」という欲望を使って、地球倫理や宇宙意識を説けば、多くの人々が一種のエコ・ファシズム的な熱狂に巻き込まれる危険性が非常に高く、私はそのことも危惧している。

というのも、最近の『脳内革命』や『神々の指紋』『猿岩石日記』などの大型ベストセラー本の登場の様子を見ると、ひと時代前のベストセラーとはケタが違う売れ行きになっているからだ。それらはただ他人が読んでいるから乗り遅れまいと買う、ベストセラーだから買う、話題についていくために買うという群衆的な心理を持つ人々が大幅に増えていることを示しているのではないか。そこに、宇宙の真理や地球の倫理をうまく持ち込めばどうなるか。まかり間違えば、他者との差異を求めつつ、同じ考えのグループに所属することで「ひとつになりたい」という欲望をギジ的に満足させ、集团的自我を獲得することによって、他の集団との抗争に突入してしまうということも、この世界では日常的に起きている。これをどうしたらいいか。

さらに言えば、宇宙の真理や自然のセツリなどという言葉を使って、このような群衆的な人々を操ることで、大きなマーケットが成立しているのが実情である。そういう商売のやり方で、この行き詰まった近代文明を乗り越えることができるかという点、とてもそうは思えない。それは差異の欲望を刺激して経済活動の原動力にしてきた資本主義の本来のやり方と何ら変わりのない姿に過ぎないのだから。

しかしまた一方で、「それぞれでありたい」という欲望は非常に根源的なもので、簡単に抑圧することができるとは思えない。一度、パンドラの箱を開けたら、そう簡単にはもとに戻せないのである。

もうひとつの傾向として、エコロジー事業研究会の呼びかけ文にも書いているが、単なるエコ商品を売るということは、差別化商品を売るということに過ぎないということを描いておかなければならないだろう。つまり、他人とは違うモノを買うことによって「それぞれである」との欲望を満足させる仕組みの中に有機野菜やエコロジー商品は取り込まれていくのである。今では、どんなスーパーやデパートにも、有機野菜やわけあり商品があふれるようになっており、生産者の名前や顔写真を表示した大根なども売っている。一般の商品との差異を強調して販売することは、もともと有機野菜、無農薬野菜の流通が始まったときからのことだが、近ごろでは誰もが差別化商品を売るので、差異がわからなくなってしまうている。

A 逆に私の店では、もともと看板にも自然食品や無農薬や有機野菜の文字は使っていない。店内にもそのような表示はない。コンビニと間違えられるようなミセガマエだから、「タバコないですか?」「ブルドッグソースはないですか?」などというお客様が飛び込んでくる。真冬にトマトやキュウリを求める方も多い。そんなときに、「市販の大手メーカーのソースはないですが、おいしいヒカリのソースがありますよ」、「トマトは夏に採れるので、夏になったらおいしいトマトが出ますから食べてください」などと会話をかわすことが日常になっていく。なるべく差別化商品を売るというやり方をとらないように努力をしている。反対にお客様から様々な情報を教えてもらうこともしばしばである。ワークショップをお店でやっているようなものだが、そこではお客様と共同作業で、刷り込まれた価値観を問い直す学びの空間をめざしている。

③ こういう悪循環の中にいる私たちに何が必要かをここで考えたい。自然というものは、資源という経済行為の対象として把握されるだけでなく、本来は非常に無限の多様性を持っている。自分も他人も、人間というものはやはり経済人としての均質化された側面だけではなく、自然の一部として非常に多様性、異質性を持っている。ところが、私たちの意識が経済合理性に支配されているためにまなざしの均質化がすすみ、その多様性が見えにくい。そこで、その「多様性、異質性を発見する力」、「もう一度違う意味に意味づける力」、「世界の中に自分を位置づける力」、「物語る力」が必要である。

そのためには、モノとお金の消費という方法を使わないで、人が自分は唯一のかけがえのない存在であるということ、つまり他者との差異を実感し、**B** 他者をケイベツせず、他者によって承認されるシステムがあればいいということである。それを、道徳や倫理や自覚を説かないで、つまり教えないで、自覚(気づき)を必然的に生み出す教育システムがあればいい。ここでは「教えないで」ということが大事である。今までの教育システムは、一九一二年に近代労務管理の原理であるテラー・システムをモデルに、教育目標を教師が決め、学力テストで評価する教育だから、唯一の正解を教える側が持っていて学ぶ者を評価し誘導する。つまりそれは目的合理性に支配された教育だから、ますます差異の欲望にふりまわされる人しかつけれない。つまり価値はどんどん単一化、均質化する。それでは、このような価値の転換⇨多様性の発見他者性の発見は引き起こせない。むしろこれまでの教育は、他者との差異を確認したいという「それぞれでありたい欲望」を、他人との競争に勝利することで確認したいという欲望として作り出してきたのだと言ってよいのではないだろうか。

(加藤 哲夫、「『自然』は商売になるか』『現代日本文化論(8)欲望と消費』より)

※テラー・システム

工場の作業者を効率的に管理するためのマネジメントシステム。

学力検査問題「国語」(その二)

(2022 一般Ⅲ)

解答はすべて解答用紙に記入せよ。

問一 傍線部①～⑤のカタカナは漢字に直し、漢字には読み仮名を付けよ。なお、送り仮名があれば、ひらがなで記せ。

- ① 危惧 ② ギジ ③ セツリ ④ ミセガマエ ⑤ ケイベツ

問二 A、B に適する接続詞を、次のア～オからそれぞれ一つ選び、記号で記せ。

- ア つまり イ たとえば ウ だから エ けれども オ しかも

問三 傍線部(1) 「多くの人々が一種のエコ・ファシズム的な熱狂に巻き込まれる危険性」とはどのような事柄を意味するか。詳しく説明している部分を本文から百字以内で抜き出し、はじめと終わりの七字を記せ。(句読点を含む)

問四 傍線部(2) 「なるべく差別化商品を売るといふやり方をとらないように努力をしている」ことこの理由を述べている箇所を「くから」につながる形で本文から三十五字以内で抜き出し、はじめと終わりの七字を記せ。(句読点を含む)

問五 傍線部(3) 「こういう悪循環」とはどのような状態を意味するか。説明している一文を本文から抜き出し、はじめと終わりの七字を記せ。(句読点を含む)

問六 傍線部(4) 「私たちの意識が経済合理性に支配されている」というが、その原因について筆者はどのように述べているか。文意に即して、八十字以内で説明せよ。

問七 次のア～オについて、筆者の意見に合致しないものを二つ選び、記号で記せ。

ア 「それぞれでありたい」欲望は人間にとって本質的なものだ。

イ 情報化社会においては、群衆心理を利用して、集団的自我を得ることができない。

ウ 他者との違いを見据えて、世界の中で主体性を確立し、それを物語る力が必要である。

エ 自然食品や無農薬野菜を買うことは、教えない方がよい。

オ 自然食品や無農薬野菜を買うことは、「それぞれでありたい」欲望を満足させるものだ。

学力検査問題「国語」(その三)

解答はすべて解答题用紙に記入せよ。

2 次の文章を読んで、問一～問七に答えよ。

「僕は普段小説をまったく読まないで、この本を読んだけど難しかったです。次に書く小説は、もっと簡単でわかりやすい内容にしてください」

ひとりの青年に言われた。とある街が企画したトークショーでのことである。三百人以上入ったホール。青年の手には、私の小説がしかと握られている。ひとつ言い添えれば、彼の発言は本気の抗議とは見受けられなかった。単に思い切ったことを言ってみただけで、という程度の気分だったと思う。よって私は不快も覚えず、しかも司会の方が「なに言ってるんだ、君は」と即座に一喝したのでかえって恐縮し、「えー、江戸の奇術に『胡蝶の舞』というのがございます。切り紙でこさえた蝶が扇子に煽られ飛んでいる、そこにお客が想像でもって物語を見出し、ふと涙することもあったってんですから、これぞ見巧者と申しませうか」と、苦しまぎれの一席をぶって、(A)を濁したのだった。そもそも小説は自由に読まれるべきもの。いろんな解釈があってもいいのだ。が、別の観点から語れば、この一幕は、それなりに精魂込めて成した仕事を「ニーズに合わない」と切り捨てられた瞬間ともいえる。このとき、私の中には以下の思いが順を追って湧いたのだった。

①「四の五の言わずに日頃から小説を読んだらどうだ」②「おっしゃることはわかるが、作家としてはあらゆることを煎じ詰めてこの形に行き着いたのであつて悔いも二言もござらん」③「しかし自分の技量がまだまだなのは確かなのだから、もっと修練すれば、本質的な部分を変えず多くに届かせることができるかもしれない」

①は面と向かって否定された動揺に他ならず、赤提灯でくだのひとつも巻けば済む話だ。問題は、②の生産者としての意志、③の商品流通上での配慮である。これらは、仕事をする多くの人々が（私ほど短絡的ではないにせよ）抱いた覚えのある思惟ではないか、と勝手ながら憶測している。

携わる事業に対する自分自身の信念と、世の需要とは、必ずしも合致するとは限らない。ヤスキに流れずいいものを作りたい、高みを目指したい、業界に(B)をつけたい。が、練りに練った創意工夫は意外や受け手に見過ごされ、のみならずそのこだわりを周囲に煙たがられることさえある。といって消費者におもねるのはどうか。いや、一口におもねるといつても、多数の意向はそうたやすく掴めはしない——こうして②と③の間で揺れ動きつつ、支柱となるところを見出そうと努めるのが、仕事人の日々という気もするのだ。

ちなみに私は、幼いころよりキャプテンハーロックの名言「俺の旗の下に俺は自由に生きる」をザユウの銘としてきたために、一旦は③を考慮しつつも、すぐ(C)に戻ることを繰り返している。これだと思いのままには生きられるが、三日に一度の割で(D)を食うハメになる。

二十代の頃、伝統芸能や工芸の第一人者と呼ばれる方々にインタビューをさせていただく機会に恵まれた。その際、あなたにとって仕事とは、というお決まりの質問に対し、「(X)」とお答えになる方の多さに驚いたものだ。はじめ私はそれを、「ひとことでは言えない」というお叱りだと受け止め、(D)をすくめた。なにしろ、それぞれの道を見事に極めた方々なのだ。が、戸惑う私に、ある方がこう補足してくださったのである。

「やればやるほど、突き詰めれば突き詰めるほど、その先にあるものが見えてくる。だからわからなくなるんです。つまり、私どもの仕事は終わりがありませんね」

困ったふうでも苛立ったふうでもなく、どこか楽しげな表情をされていたのが印象的だった。

なににせよ、すぐに理解し、すぐにこなせるようになり、すぐに結果を出したい。仕事においてはなおのこと、失敗は避けたいし、不要な苦労も傷つくのも嫌、回り道などまっぴら御免。だから必死で平坦な近道を探すのだ。しかし、である。(E)道を省けば、必ずその分取りこぼしが出る。一見些末に思える雑用やアシスト仕事にも、そこからしか見えない景色が必ずあるのだ。それを退屈としか感じられないのは、そのときその立場で為すべき観察や考察を怠っているせいかもしれない。取りこぼしたものをあとで拾いに戻るのはシナンノ業だ。そうして案外地味な作業の中にこそ、(F)道を極めるのに必要な鍵がまぎれこんでいるから油断ならないのだ。

私がかつて、「これはこうだ」とスパッと言い切れるものが好きであった。悟りを開いて悠然としている人に憧れていた。だが社会に出て二十余年、その考えは少しずつ変じている。行く道に道標はなく、仕事で重ねた努力はたまにしか報われず、懸命な考察を他者が違わず汲み取れることも稀だ。②と③の間で始終揺れ、いくら経験を積んでも明快な答えには辿り着けない。なんとももどかしい。

しかし人は、わからないから考え、想像し、工夫をし、成長するのだ。自分の仕事の本質をなんとか見定めようと目を凝らすのだ。小説とはなにか、新聞とはなにか、芸能とは、工芸とは、電気機器とは、車とは、建築とは……ということ。

それはきつと、「すぐにわかる」ような薄っぺらい場所ではなく、奥行きある世界に自分が身を置いている証なのだと思う。そうして、なかなかわからないものに、いつまでも面白がって関わっていけるとしたら、それこそが仕事をする上で至高のぜいたくであり、幸せなのではないか、と近頃思いはじめているのである。

学力検査問題「国語」(その四)

(2022 一般Ⅲ)

解答はすべて解答用紙に記入せよ。

※見巧者

みごうしゃ。芝居などを見慣れていて、見方の上手な人。

赤提灯

大衆向けの酒場。

キャプテンハーロック

松本零士まつもとれいじの漫画『宇宙海賊キャプテンハーロック』の主人公。

問一 傍線部 a～c のカタカナを漢字に直せ。なお、送り仮名があれば、ひらがなで記せ。

a ヤスキ

b ザユウ

c シナン

問二 波線部 (A)～(D) は慣用表現として、それぞれ左記のような意味で用いられている。慣用表現となるように、空欄に入るべき適語を、それぞれア～クから一つずつ選び、記号で記せ。

(A) () を濁した

「いい加減なことをしてその場を取り繕った。」

(B) () をつけた

「人より先に着手したい。」

(C) () を食う

「生活の手段がなく、食べるものにも困る。」

(D) () をすくめた

「緊張や驚きなどのために体が縮んで動けなかった。」

【ア 表

イ 身

ウ 水

エ 霞かすみ

オ 心

カ お茶

キ 足跡

ク 先鞭せんべん

】

問三 傍線部 (1) 「生産者としての意志」、(2) 「商品流通上での配慮」について、それぞれ同じ内容を表している部分を、(1) は二十字以内で、(2) は五字以内で本文から書き抜け。

問四 空欄 X に、文意が通るように適語を考えて、十字以内で記せ。

問五 傍線部 (3) 「道を省けば、必ずその分取りこぼしが出る」とは、どういうことか。四十文字以内で説明せよ。

問六 傍線部 (4) 「道を極めるのに必要な鍵」について、その一つと考えられることは何か。本文から二十文字以内で書き抜け。

問七 傍線部 (5) 「だが社会に出て二十余年、その考えは少しずつ変じている」とあるが、筆者は仕事について、どのように考えるようになったか。四十五字以内で説明せよ。

学力検査問題「国語」(その五)

(2022 一般Ⅲ)

解答はすべて解答用紙に記入せよ。

3 次の文章を読んで、問一～問五に答えよ。

どうやらしばらくの間、新型コロナウイルスとともに生きていかなければならぬらしい。

このウイルスは人々に生活様式の変化を強いただけでなく、^①いまの時代を生きるすべての人間の深層心理にじわりと影響を及ぼしている。たとえ感染状況が落ち着いている間であっても、人は常に心の奥深いところでこのウイルスの存在を察し、そのため生まれる不安、いらだち、抑圧、そして虚無感のようなものを感じている。

先行きが見えない状態がいつまで続くのだろう。まるでSFの世界に生きているようではないか。^②心の内側に重いものを抱えたことで、人の生き方、価値観が変容していく。

私のランニング生活も大きく変わってきた。

春以降、ほとんどすべてのマラソン大会が中止になったことで、大会に照準を合わせて走力を養う、トレーニングとしてのランニングとは無縁になった。肉体をいじめ、鍛えるとか、自分と闘うとか、そういうことがなくなってきた。

58歳という年齢ゆえ、コロナ以前からその傾向はあったものの、大会を失ってからは走るペースがますます落ちていき、朝日を拝みながら農道や川沿いをのんびり走るようになった。

優れた景観、自然の営みに目を奪われたら立ち止まり、スマホで写真に収める。身近に隠れた魅力、これまで見逃していたものを発見することに喜びを感じながらのランニングだ。

近隣を足でめぐる旅であり、ウィズコロナの時代だからこそクローズアップされたマイクロリズムの実践と言えるだろう。

競技性の薄れたランニングに終始しているうちに、9月半ばに首のヘルニアの痛みが再発し、まともに走れない期間が1カ月も続いた。再開はしたものの、走らない日が何と多いことか。かつては疲労や寒さを理由に3日続けて走らないと後ろめたさを感じたものだが、いまはそうでもない。

これもコロナによる価値観の変質のアラワレなのだろうか。自分を束縛したり、強制したりすることのばかばかしさを感じる。

実は、走る^①ヒンドが低くなったカワリに、山に足を向けることが増えた。トレイルランニングに移行したわけではなく、じっくり登り下りることで、山を味わっている。

8月末以降、磐梯山(福島)を2度、登頂したほか、霊山(福島)、禿岳(宮城・山形)、大菩薩嶺(山梨)、金峰山(山梨・長野)に登ってきた。

どの山でも、樹林帯を抜け、眺望の開けた稜線(りょうせん)に出た瞬間、胸が躍る。朝日岳を経由する金峰山へのルートでは、遠くに望む^②シュウレイな富士山の美しさに浸り、八ヶ岳の荘厳な岩肌を圧倒され、わずかに雪を抱いた南アルプスの山なみに心が洗われた。

^③なせ繰り返し、山に向かうのか。単に景観を求めているわけではない気がする。次々と山を制したいという欲が働いているだけではない気がする。

ジョージ・ゴードン・バイロン(1788～1824年、英国)の物語詩「チャイルド・ハロルドの巡礼」(土井晩翠訳)にこんな一節がある。

「我は自らの中に生きず、我が周囲(めぐり)にあるものの一部たり」

「自然に我はかくも融け入る、これぞ誠の命なる」

農道や川沿いをのんびり走りながら、登山道を踏みしめながら、私は自然の中に溶け込んでいく。自分が独立した存在ではなく、周囲と融和していく。

そのとき、取り巻く世界のすべてが一つの命であるように感じる。自分の収まりのよさを感じる。そこにある安寧が私を走らせ、登らせるのかもしれない。

(吉田 誠一、『日本経済新聞』二〇二〇年十一月三〇日「山を登る魅力」より)

学力検査問題「国語」(その六)

(2022 一般Ⅲ)

解答はすべて解答用紙に記入せよ。

問一 傍線部①、②のカタカナを漢字に直せ。

- ① ヒンド ② シュウレイ

問二 波線部 a～c のカタカナの語に適する語を、次のア～エからそれぞれ一つ選び、記号で記せ。

	a メグル	b アラワレ	c カワリ
ア 回る		ア 現れ	ア 換わり
イ 巡る		イ 顕れ	イ 変わり
ウ 旋る		ウ 表れ	ウ 代わり
エ 環る		エ 洗われ	エ 替わり

問三 傍線部(1)「いまの時代を生きるすべての人間の深層心理にじわりと影響を及ぼしている」というが、筆者の場合、ランニング生活に対する心境がどのように変わったのか。詳しく述べている文を、二箇所、本文から抜き出し、はじめと終わりの七字を記せ。(句読点を含む)

問四 傍線部(2)「心の内側に重いものを抱えたこと」を詳しく説明している一文を本文から抜き出し、はじめと終わりの七字を記せ。(句読点を含む)

問五 傍線部(3)「なぜ繰り返し、山に向かうのか」というが、その理由を文意に即して四十字以内で説明せよ。

解答用紙「国語」

2022

般Ⅲ

中 考

1

問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一
イ	と、たこ	はじめ	はじめ	はじめ	A	①
エ	い他めれ	一般	単な	まか	ウ	きぐ
	う人目ま	のる	り	B		
	欲との合	の商	エ工	間	オ	②
	望の理教	品と	コ商	違え		擬似
	と競争性	育は	の品	ば		③
	してにに	支一	つし	こま		摂理
	作り勝配	のま	つと	うと		④
	出するれ	正解	て過	い		店構え
	てこ、他	を教	るい	ない		⑤
	きと者教	え	。から。			軽蔑
	たで者と	の誘				
	か確との	導				
	ら認の差	異				
	。し差	す				
	。た異	る				
	。いを					

2

問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一
	面仕そ	れ仕	わ	世携	(A)	a
	白事	のる	か	のわ	カ	易き
	くの	とべ	ら	需る	(B)	
	、本	きき	な	要事	ク	b
	幸質	そ	い	業	(C)	座右
	せを	の	て	に	エ	c
	な極	立	失	対	(D)	至難
	こめ	場	敗	す	イ	
	とよ	で	や	る		
	とう	為	苦	自		
	思と	す	な	分		
	う苦	べ	い	自		
	よ闘	き	と	身		
	うし	観	い	の		
	に続	察	う	信		
	なけ	や	こ	念		
	っる	考	と			
	たこ	察	。手			
	。と		に			
	は		入			

3

問五	問四	問三	問二	問一
と自	はじめ	はじめ	a	①
融分	た	自	イ	頻度
和は	と	分	b	
す自	え	を	ウ	②
る然	感	束	ウ	秀麗
こか	染	縛	c	
とら	状	した	ウ	
で独	況	た魅		
、立	終わり	終わり		
安し	を	し	ラ	
寧た	感	さ	ン	
を存	じ	を	ニ	
感じ	在	感	ン	
じで	い	じ	グ	
らは	る	る	だ	
れな	。	。	。	
るく				
か、				
ら自				
。然				